

## その3 流山の児童・生徒の頑張り具合の報告

過ぎる4月13日の読売新聞朝刊に「英語教育に自治体格差」と題する記事が掲載されました。曰く『小学校で2020年度から新しく全面実施される次期学習指導要領が3月末に告示され、従来歌やゲームを通じて英語に親しむ「外国語活動」が5～6年生から3～4年生に前倒しし、5～6年で英語を正式な教科とするのが柱』。県内では先行して実施している学校がある一方、自治体間で格差が生じているとの指摘有り、20年度までにどう解消するかが問われているとのこと。本市の全市立小16校は、国の制度を使って独自のカリキュラムを組み、英語教育を充実させているのは皆さんもご存知でしょうか？

市は今年度の当初予算に、担任をサポートする外国語指導助手(ALT=Assist Language Teacherの略)の人員費など約31百万を計上。担当の指導主事曰く「人材の確保や予算措置のおかげで取組んでいる」。また他市では「予算が絡むので首長の熱意が必要」との声があります。

因みにこの記事に先立つ4月6日付けで文科省が発表した2016年度の全国公立中高生を対象とした英語教育実施状況調査の結果を発表。中学3年生で英検3級程度以上、高校3年生で英検準2級以上の英語力を17年度までに50%以上という政府目標に対し、中高と

もに全国平均36%台と難しい状況となっています。都道府県ごとに見ると中3では奈良県が48%でトップで、東京・福井と続き千葉県は45.9%で4位。本市ではどうでしょうか？ 達成率なんと**63.6%**！ 他の市町村の実態は明らかにされていないので順番などは不明ですが、首長の方針と予算と現場の努力が合致しての誇ってよい成果です。「継続は力なり」しっかりと進みましょう。添付した資料には中高の英語教員の英語力の目標と実績も表示されていますが、市レベルまでは公表されていないので参考資料としてみてください。

表5:英語教育の現状報告(国・県・市) (H29・4・6朝刊)

	政府 目標	全国 平均	千葉県	政令市 千葉市	流山市
中学校3年生 英検3級以上	50%	36.1%	45.9%	46.6%	63.6%
高校3年生 英検準2級以上	50%	36.4%	41.0%	?	?
中学英語教員 英検準1級以上	50%	32.0%	31.5%	45.8%	?
高校英語教員 英検準1級以上	75%	62.2%	46.1%	?	?

全国公立中高等学校計:12,850校

中学英語教員目標達成⇒福井県のみ

高校英語教員目標達成⇒香川・福井・石川等12県

## おおたかの森駅前市有地の等価交換について(お詫びとご報告)

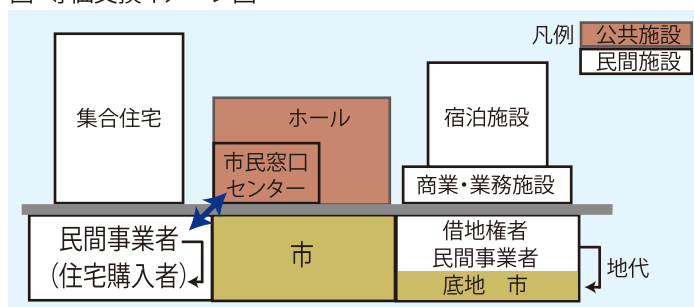
前20号に「ほねぶと議会報告 平成28年第4回定例会」・・・おおたかの森駅北口の市有地活用計画について・・・報告しました。しかし西川の勘違いで内容の修正が必要ですので、ここに改めてご報告いたします。北口の市有地約1ヘクタール=1万㎡の土地には、図上中央の市民センター+多目的ホール(3,945㎡)と左側の集合住宅(マンション建設・4,200㎡)と右側のレストラン・バンケット施設付きのシティホテル+商業施設(2,000㎡)の整備が決定しました。その際に左側の集合住宅の土地代(@511千円/1㎡当り×4,200㎡=2,146.2百万円)とそれに相当する中央の公共施設(市民センターと多目的ホール)の建設及び装備・備品などの総費用(約21億+α)を事業者負担として、等価交換契約締結となりました。

更に、右側のシティホテルには市の条件としてレストラン・バンケットルーム設置を要請し、50年間の定期借

地契約に10年間の減額措置(月額610千円/1㎡当り×12か月×10年=146.4百万円)を盛り込みました。

市内での大型宿泊施設の確保と共に、色々な規模でのイベント施策などを展開する空間にも配慮した内容になっています。おおたかの森駅周辺のインフラの充実がさらに進み、市役所の代行機関としての充実も図られ、流山市の「へそ地域」実現となるでしょう。

図:等価交換イメージ図



春といえば桜。もう既に葉桜の時期になっていますが、自宅の裏庭が麗澤大学の学生寮の裏に接しており、そこに一本の大桜が両腕を拡げている。我が家はわざわざ出張なくとも花見ができるので「行きはヨイヨイ」である。さて逆に、「帰り(満開後)は怖い!」

ピンクの花弁ははらはらとあっという間に散り始め、風吹けば家の中まで入り込む。そして花の支え元、落ち葉桜、そして最後に「毛虫」まで堀越しに当家の庭へ落下物。「帰りは怖い」の実態は斯くなり。「借景に文句言うな!」と言われそう・・・皆さんの今年の桜雑感はどうでしたか？